

性別による
固定的な役割分担意識に
とらわれない



男女共同参画の **視点** からの 公的広報の手引き

男女共同参画社会の実現には、「男は仕事、女は家庭」といった性別による固定的な役割分担意識の解消が最も重要となります。

こうした意識は、さまざまなメディアを通じて形成される場合も多く、なかでも公的機関が作成する広報は、その表現が模範的であると受け取られることが多いため、在り方が問われます。

公的広報の作成に携わっているみなさんが、普段何気なく使っている表現が、性別イメージの固定化につながっていることはないでしょうか。

この手引きは、深川市の公的広報の作成に男女共同参画の視点が取り入れられ、より豊かな表現を作り出すために提案するものです。

この手引きが、公的広報の作成に携わらない人や関係機関、団体などにおいても、男女共同参画社会への理解を深めていただくための資料として活用されるよう願っています。

対象となる広報とは、
各種広報紙、ポスター、チラシ、パンフレットなどの
冊子類、新聞・ラジオ・テレビなどを通じて行う広報、
インターネット上のホームページなどをいいます。

1

性別による固定的な役割分担意識を見直しましょう。

表現上の留意点

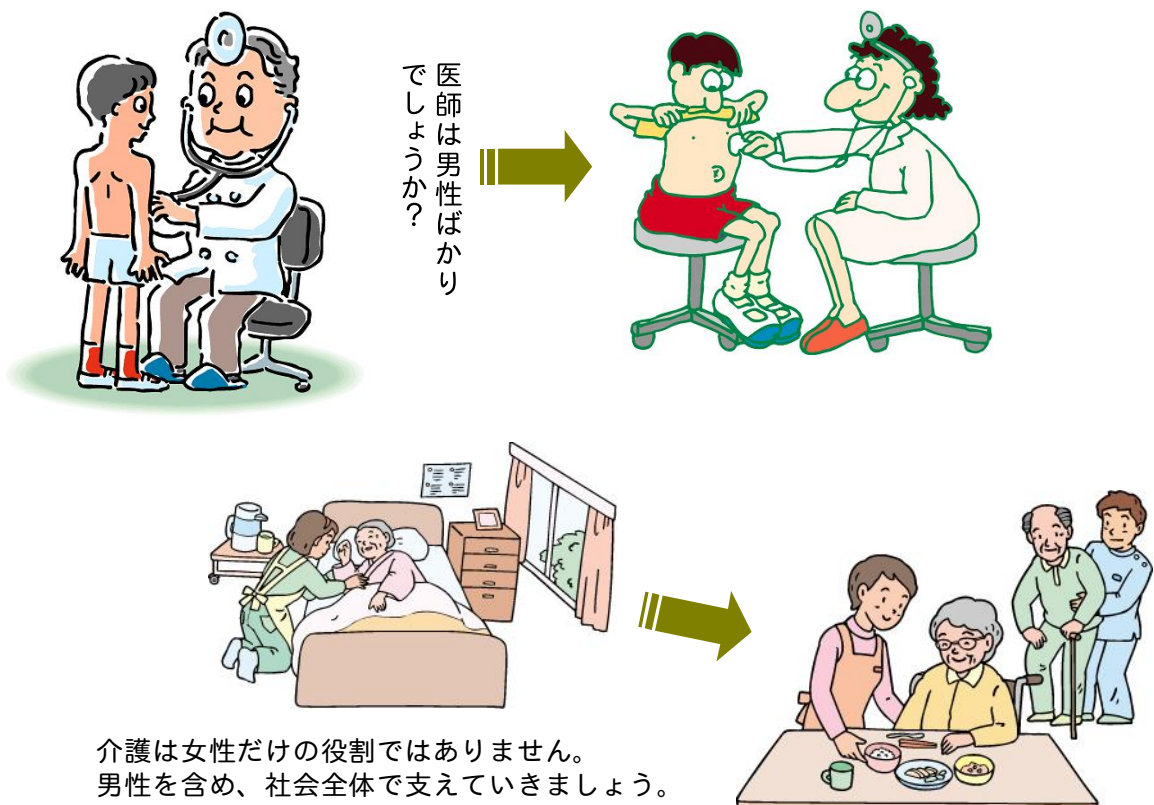
役割分担、職業の性別イメージを固定化して描いていませんか？

「男は仕事、女は家庭」といった性別による固定的な役割分担を強調したり、性別で職業を分ける表現を用いるのではなく、男女が仕事や家事・育児で協力したり、さまざまな職業に就いたりしている現実を反映させる表現を心掛けましょう。

こんな表現に注意しましょう

- 家事・育児や介護の姿を常に女性とする。
- 技能や体力を要する職業には男性だけを、外見の美しさや心配りを期待される職業には女性だけを登場させる。
- 仕事の補助的業務（例えばお茶出し、コピーなど）は女性、中心的業務（例えば会議）は男性とする。
- ボランティアなどの地域活動への参加を女性、子ども、高齢者に限定する。

■例えば、このような表現もあるのではないのでしょうか。



2

いろいろな個性を表現しましょう。

表現上の留意点

性別で好みや行動イメージを固定化して表現していませんか？

好みや行動は人それぞれです。性別で固定化して表現せず、多様な現実を反映させ、女性、男性それぞれを幅広いイメージで表現しましょう。

こんな表現に注意しましょう

- 服装について、女性はスカート、男性はスーツと画一的に表す。
- 外見について、背丈や体格の違いを性別で強調し、個人差を無視して表現する。
- 興味や関心について、男の子はサッカーや理科、女の子はままごとや読書を好むものとして表現する。
- 性格や行動について、男性はたくましく積極的に、女性は優しく控えめなものとして表現する。

■例えば、このような表現もあるのではないのでしょうか。



3

女性と男性を対等に表現しましょう。

表現上の留意点

男女を対等な関係で描いていますか？

常に、男性を中心的な存在、指導的な立場、守る側として、女性を周辺の存在、従属者的な立場、守られる側として描かず、男女は対等で、地位や立場もさまざまであることを示す表現を心掛けましょう。

こんな表現に注意しましょう

- 常に男性がリーダーで、女性をアシスタントとして登場させる。
- いつも男性を中心・先頭・前面に、女性を周辺・後尾・背後に配置する。
- 男性が教え・命じ、女性が問い・従うという関係で表現する。
- 文章上で、「男性顔負けの活躍」、「女性でも簡単に分かる」など女性が男性よりも劣ることを前提として表現する。
- 常に強者・加害者・悪人・守護者を男性とし、弱者・被害者・善人・被保護者を女性で表す。

■例えば、このような表現もあるのではないのでしょうか。



性別と立場、関係を結びつけた表現にしないで、多様な表現を工夫しましょう。



4

人格を尊重して表現しましょう。

表現上の留意点

女性を飾り物として使っていないですか？

テーマや内容に関係なく、アイキャッチャー（人目を引くための手法）として女性の容姿や身体の一部をポスターなどに使用することは、女性の人格を無視した表現につながります。伝えたい内容と対象に合った効果的な表現方法を工夫しましょう。

こんな表現に注意しましょう

- 内容とは無関係に女性の水着姿や身体の一部だけを取り上げ、女性の性的側面のみを強調して表現する。
- 画像に限らず、見出しで「美人〇〇」など容姿に関係する言葉を使う。

■例えば、このような表現もあるのではないのでしょうか。



内容と関係のないイラスト



伝えたい内容を強調したイラスト

5

受け手には男性も女性もいることを認識しましょう。

表現上の留意点

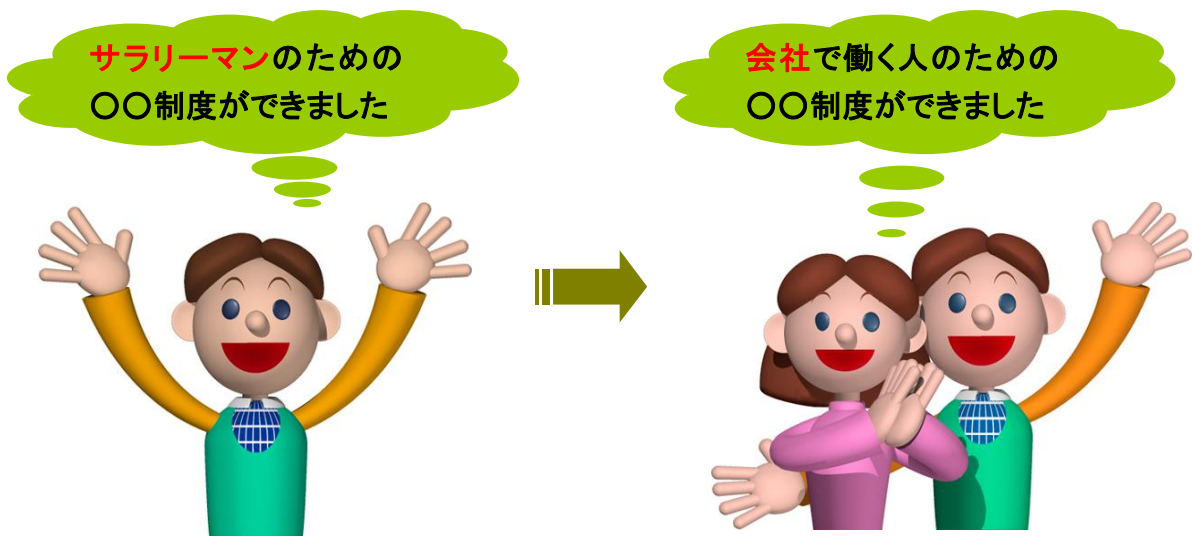
男女いずれかに偏った表現になっていませんか？

広報の内容が男女双方を対象にしているにもかかわらず、どちらかが想定されていないかのような表現を使うと、伝えるべき相手に正しく伝わりません。登場する人の人数や回数が男女いずれかに偏らないよう心掛けましょう。

こんな表現に注意しましょう

- 職員募集を広報する場合、女性の採用もあるのに、ポスターの登場人物を男性だけにしてしまう。
- 男女いずれにも関係する内容であるのに、一方の性に偏った言葉で表現する。（「フレッシュマン→新人」、「潜水夫→ダイバー」、「OB→出身者」、「父兄→保護者」など性別を特定しない言葉を使う工夫が必要です。）

■ 例えば、このような表現もあるのではないのでしょうか。



勤労者すべてを対象とした制度にもかかわらず、「〇〇マン」という男性をイメージする言葉やイラストを使うと、女性は自分が対象ではないと感じるかもしれません。

6

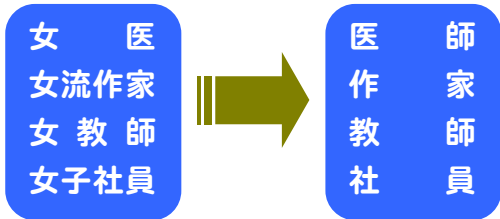
対称的で平等な表現を心掛けましょう。

表現上の留意点

男女で異なった表現を使っていますか？

■「女性」を冠する言葉は必要でしょうか？

職業や地位などに触れるときに、女性の場合だけ性別を冠することがありますが、文脈や趣旨と無関係に使っていないか注意しましょう。



■男性、女性いずれかに特有な表現は必要でしょうか？

男性または女性だけに使われる表現には十分注意し、男女双方に使える言葉や別の言い方に変えるなどの工夫をしましょう。

(「対になる表現があるか」が判断の目安になります)



■男女の呼称の区別は必要でしょうか？

男女の呼称や敬称を区別する場合には、その必要性や平等性を考えましょう。

- 男性を「深川さん」と姓で呼び、女性を「花子さん」と名前で呼ぶ。
- 男性を「氏」で呼び、女性を「さん」で呼ぶ。



同一広報では、同一の呼称や敬称を心がけましょう。

■統計上、女性を内数で表現する必要がありますか？

アンケート結果や統計数値を示すときに、「〇〇人(うち女性〇〇人)」と女性を内数で表現することがありますが、記載する目的を踏まえて、公正で分かりやすい表現を工夫しましょう。

- 「〇〇人(うち女性〇人)」
- 「女性〇人を含む〇〇人」



- 「〇〇人(男〇人・女〇人)」
- 「男〇人・女〇人・合計〇〇人」

手引きの活用にあたって

1. 言葉や表現を正すこと自体が目的ではありません。

言葉やイラストなどの表現は、繰り返し伝達されることで、人々のものの見方に影響を与えています。そのため、この手引きでは、男女共同参画の視点から留意いただきたい事例を掲げていますが、言葉や表現を正すこと自体が目的ではありません。普段何気なく使っている表現を振り返り、そのなかに潜在している「性別による固定的な役割分担意識」に気付いていただくことが最も重要と考えています。

2. すべてにおいて男女同数の表現を求めるものではありません。

固定観念にとらわれて男女の役割やそれぞれの関係を画一的に表現することは、男女いずれかには関係がないという印象を与えかねません。男女がさまざまな分野で活躍している現実を踏まえて、より多様なイメージを表現しましょう。

例えば、イラストの人物をすべて男女同数にすればよいということではなく、伝えたい内容や目的に照らし合わせて、より効果的な男女の登場割合について工夫していただきたいのです。

3. 「表現の自由」を制限するものではありません。

この手引きは、個々の表現の画一的な言い換えを強要するものではありません。より効果的な広報を作成するための手がかりとして、男女共同参画の視点に立って例示を紹介するものです。

公的広報は、私的な表現とは異なることを十分にご理解いただくとともに、男女共同参画社会の実現に深く関与していることを認識いただければ幸いです。

男女共同参画の視点からの“公的広報の手引き”

(平成 17 年 3 月発行)

深川市企画総務部企画課

電話(0164)26-2215 FAX(0164)22-8134